

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	文学部	身分	教授
氏名	大川 真		
NAME	Okawa Makoto		

中央大学特定課題研究費による研究期間終了に伴い、中央大学学内研究費助成規程第15条に基づき、下記のとおりご報告いたします。

1. 研究課題

東アジア思想における正義論の発掘

2. 研究期間

2021・2022年度

3. 費目別収支決算表

掲載省略

4. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

正義論に関する研究では、古代ギリシャ思想やジョン・ロックやジャン＝ジャック・ルソーによって展開された16・17世紀の社会契約論を嚆矢とし、これらを批判的に継承した20世紀のジョン・ロールズによる『正義論』を頂点とする見方が一般的であった。現在では、コミュニタリアニズム、コスモポリタニズム、フェミニズム等の立場から、ロールズの学説に対する様々な批判や再検討も行われている。しかしながら、「正義論」が西洋思想・哲学に特有の産物のように語られ、東洋思想とは切り離されている現状には、申請者は大きな疑問を感じている。本研究では、「正義論」を広く「正義や公正を考え、その実現を求める言説」と定義し、西洋だけではなく、東洋も含めたグローバルな視野で捉え直していった。特に本研究で注目しているのは、前近代東アジアの共通善を形成する基調となっていた儒教の思想である。儒教では「理」に基づく規範が説かれるが、「理」の規範意識が独善的であるか、どうかという検証が、重要である。この思考テストなしでは、現代に活かしうる思想資源にはなり得ない。その際に「天」と「理」とが単純に連続するのではなく、ある種の緊張関係があるかどうかを解明していく必要がある。また儒教思想との関連で言えば、第二次世界大戦後に再生自然法論を提唱したラートブルフやカウフマンらの言説と比較していくことが重要であると考えられる。

（英文）

This study pays particular attention to Confucian thought, which was the keynote in forming the common good in pre-modern East Asia. Confucianism preaches norms based on '理 (reason) ', but examining whether the normative consciousness of 'reason' is self-righteous is crucial. This thought test must be a thought resource that can be utilised in the modern era. In doing so, it is necessary to clarify whether there is a certain tension between 'heaven' and 'reason' rather than a simple continuity between them. Concerning Confucian thought, it is also essential to compare the discourse of Rathbruch, KAUFMANN and others who advocated a theory of natural regenerative law after World War II.